

(こくさいか山口 2003年1→3月号掲載記事)

～宝物は根気よく探すもの～

下関市総合政策部国際交流課
(釜山広域市派遣職員)
石田 朋彦

韓国の冬――外は寒いけど部屋内はオンドルで暖房地獄だと聞かされてきました。これは集中暖房管理型の話で、最近の建物は家庭毎のオンドルに変更されています。外から帰ると確かにほんのり暖かいのですが、Tシャツに短パンと言う訳にはいきません。さすがに石油ストーブはあまり見かけません。オンドルに慣れて日本に帰ると、きっと床暖房推進論者になっていることと思います。

私の宿舎は25年前の建物で間取りは少し古いタイプなので、玄関・居間と台所がつながっています。最近少し居間が寒いので、ちょっと区切り、部屋のペンキを少し塗り替えて模様替えをしたいなあと考え、既製品のカーテン・カーテンレールとペンキを少し買いたいと思うのですが、これがなかなか困るのです。韓国という国の不思議なところ、合理的なのか、あるいは…すべてが専門店なのです。市場などに行くと金物・生地(反物)・洋服や食器などの各専門店がたくさん店を連ねています。お客さんは自分の欲しいものは、その中のどこかのお店に行けば、きっと気に入った物が見つかると考えているようです。お店は隣の店にないものを揃えておくのが韓国流です。お店が沢山在りすぎて商品を選ぶのに困らないかなあと思うのですが、そうではないらしいのです。そうした買い物を楽しんでいるようです。韓国の方々は自分の意思が強く、個性的なのかもしれません。(ちなみに私は探しきれずに、仕方なくあきらめて市場でカーテン生地を買いました。)

釜山も外資系の大型スーパーがあちこちに建っていますが、その大半は食料品や衣類で、こうした雑貨コーナーはまだスペースが狭いのが実情です。生活を豊かにする雑貨がまだまだ少ないように感じるのは私だけでしょうか?日本や欧米にあるようなD. I. Y (ドゥ イット ユアセルフ) のお店をまだ探し出せないで困っています。日本では東急ハンズや西武ロフトが人気を博していると聞きます。人件費の高い日本、出来るだけ自分で行き、お金をかけずに個性的なライフスタイルを創り出そうとしているのは、今や日本だけのことではないと思います。

どうでしょう、冬が寒い韓国、ひとつこうしたお店を作って、せめて心だけでも誰か暖めていただけませんか?